

「四国遍礼道指南増補大成」

- 1
- ① ○阿州徳島より靈山寺迄二里半●徳島さこ町
- ② 九丁目より右へ行やそう川●やそう村●高さき村
- ③ 此間にすみぜ川●さだかた村●しやうずる村●此間に
- ④ 吉野川といふ大河あり、舟わたしなり●川さき村
- ⑤ 一番靈山寺阿州板野郡板東村竺和山一乘院
- ⑥ と号す、此寺弘法大師釈迦大日弥陀の三尊を作り
- ⑦ 三堂別にたて給ひ就中釈迦を本尊とし天竺
- ⑧ の靈山を和国に移せしにより竺和山靈山寺
- ⑨ といふ、大麻彦権現社伴社中宮西宮あり、国の
- 2
- ① 大守より大師堂二金剛を造立せらる
- ② 座長二尺 靈山の釈迦のみまへにめぐりきて
- ③ よろつのつみもきへうせにけり
- ④ これよりごくらくじまで十町
- ⑤ 二番極楽寺、板野郡檜村日照山といふ、此寺行
- ⑥ 基ばさつのはしめ給ふといへり、本尊阿弥陀座像、
- ⑦ 御長四尺五寸、行基の御さくなり、左に薬師如来、
- ⑧ 右に弘法大師の御影あり、是ハ後人のつくる
- ⑨ ものなり
- 3
- ① 極楽の弥陀の浄土へゆきたくハ
- ② 南无あみたふつくちくせにせよ
- ③ これよりこんせんじ迄廿五町●河ばた村●
- ④ 三番金泉寺、龜光山釈迦院といふ、板野郡大寺
- ⑤ 村、此寺大師ひらき給ひ釈迦如来御長三尺に
- ⑥ つくり、七間四面の堂を立給ふ、塔五仏を安す、今ハ礎
- ⑦ 斗也、鎮守、春日、弁才天社有○龜山法皇の御廟あり
- ⑧ 極楽のたからのいけをおもへたゝ
- ⑨ こがねのいづみすみたゝへたる
- 4
- ① 是よりくろだに迄一里、おかの宮大師堂有●
- ② ふきた村●いぬふし村●なとう村、しるし石あり、是
- ③ より十八町、谷へ入ゆく
- ④ 四番大日寺、黒岩山遍照院といひ、又ハ黒谷
- ⑤ 寺とも云、板野郡くろたに村、本尊大日座像、
- ⑥ 御長一尺五寸、大師作り給ひ安置し給ふといへり
- ⑦ ながむれ八月しろたへの夜半なれや
- ⑧ たゞくろだにゝすみぞめのそで
- ⑨ 是よりぢぞうじ迄十八町
- 5
- ① 五番地藏寺、板野郡矢武村無尽山莊嚴
- ② 院といふ、此寺ハ大師此所にて熊野権現出たまひ
- ③ 靈木を大師へまいらせられ、大師その木にて
- ④ 地藏菩薩に刻給ふに、一寸八分の尊像となら
- ⑤ せ給へり、国民靈異を欽ミ、伽藍を立といへり、
- ⑥ 其後、後宇多院の御時、住持靈感の事ありて
- ⑦ 御長一尺七寸の地藏を作らしめ、彼一寸八分の古像
- ⑧ を新像のむねに納め、また阿弥陀、薬師の二像

- ⑨ を作り、両脇に置、熊野権現、天照太神の社あり
- 6 ① 六道の能化の地藏大ほさつ  
② 導たまへこの世のちの世
- ③ 是よりあんらく寺迄一り●かんやけ村●七条村●ひきの村  
④ 六番安楽寺、又ハ瑞運寺ともいふ、板野郡ひきの村、  
⑤ 大師薬師如来の座像、御長一尺三寸に作り、伽藍  
⑥ を立、安置し給ふと也、鎮守天照太神并弥  
⑦ 勒ほさつ、大師の御多あり  
⑧ かりの世に知行争ふむやくなり  
⑨ あんらく国のしゆごをのそめよ
- 7 ① 是より十らくし迄十町●たかを村  
② 七番十楽寺、本尊座像の阿弥陀如来、極  
③ 楽の十らくをとりて寺の名とせり  
④ 人間の八苦をはやくはなれなハ  
⑤ いたらんかたハ九ほん十らく  
⑥ 是方熊谷迄一り、此間のぼら也●はらた村●となり村  
⑦ 八番熊谷寺、普明山真光院といふ、あわ郡とな  
⑧ り村、谷ふかく水涼し、本尊千手千眼観音  
⑨ 立像、御長六尺、仏舍利百二十六粒、御くしに納る
- 8 ① よし、御足のうらに記文あり、脇立不動、毘沙門  
② 運慶作、又三十二応身有、御筆の額をかけたなり  
③ 薪とり水くま谷の寺にきて  
④ なんぎやうするものちの世のため

- ⑤ 是よりほうりんじまで十八町  
⑥ 九番法輪寺、白蛇山といふ、此地田野にはさめり、本  
⑦ 尊座像の釈迦如来、御長一尺五寸  
⑧ 大乘のひはうもとかもひるかへし  
⑨ 転法輪のゑんところそきけ
- 9 ① 是より切はた迄廿五町●あきつき村●きりはた村  
② 十番切幡寺、得度山灌頂院と云、寺の名を  
③ もつて村の名とせり、本尊千手観音、不動、  
④ 毘沙門を両におけり、大師の作也、堂の右に  
⑤ 大日堂、次に鎮守、御影堂あり、中門、多聞、持国、  
⑥ 大門の二王ミな運慶の作也  
⑦ よくしんをたゝすちに切はたし  
⑧ のちの世までの障とそなる
- 10 ⑨ 霊山寺方是まで十里十ヶ所と云、是方藤井  
① 寺迄一り半●大野しま村●大八島村●此あいよし  
② の川といふ、舟わたし有、それ方麻植村ニいたる  
③ 十一番藤井寺、おゑ村金剛山と名つく、大師此  
④ 寺をはしめ給ひ、薬師如来御長三尺に作り  
⑤ 本尊とし給ふ、地藏堂、鎮守、下に二王門あり、  
⑥ 堂の前に古藤あり  
⑦ 色も香も無比中道のふしい寺  
⑧ しんによの波のたゝぬ日もなし  
⑨ 是方しやうさんし迄三り、山坂にして宿なし、

- 11
- ① 壱り半行て柳の水と云あり、是ハ旅人渴せし時
  - ② 大師楊枝を以テ加持し給ひ、水ほとはしりいて
  - ③ あたへ給ひし所なり、その楊枝をさしおき給へハ柳
  - ④ となり、其水往來の人渴をやすめ利をうる
  - ⑤ もの也、しるし石あり●是よりさうち村、谷川有
  - ⑥ こりとり川といふ、人ミなこりをとる、しやうさん
  - ⑦ 寺へ十八町のほる、坂中に薬師堂あり
  - ⑧ 十二番焼山寺、名西郡摩盧山性寿院と号ス
  - ⑨ 山高く聳たり、本尊虚空蔵大師の御作座像
- 12
- ① 四尺五寸、御影堂、次に鎮守、熱田明神、熊野権現
  - ② のやしろ拝殿鳥井あり○おくのいんへハ
  - ③ 寺より十町余あり、護摩窟蛇窟など
  - ④ いふあり、大門より十八町、坂をくだりて右衛門三郎
  - ⑤ 墓あり、大杉大サ七かいありといふ
  - ⑥ のちの世をおもへハ恭敬しやうさん寺
  - ⑦ 死出や三途のなんじよありとも
  - ⑧ 是方一の宮へ五り、さうち村へもどり一の宮へ行てよ
  - ⑨ し、あかハ村●ひろの村●いりた村、二本木の
- 13
- ① ちや屋といふあり、しやうさんし方は迄山路谷あ
  - ② ひ川あまた有
  - ③ 十三番一宮寺、名東郡、寺ハ大栗山花蔵院
  - ④ 大日寺と云、此寺大師大日如来の像を作り安
  - ⑤ 置し給ふとなん、今の本尊八十二面観音、一の宮の
- 14
- ① 是よりじやうらくし迄十五町、此間川あり
  - ② 十四番常楽寺、名東郡盛寿山と云、本尊
  - ③ 弥勒菩薩、大師の御作、座像八寸
  - ④ 常楽のきしにハいつかいたらまし
  - ⑤ ぐぜひのふねにのりおくれすハ
  - ⑥ 是よりこくぶんじへ八町
  - ⑦ 十五番国分寺、法養山金色院といふ、国分寺
  - ⑧ といふハ聖武天皇詔して丈六の釈迦一菩薩を
  - ⑨ 作大般若を写し、天下一国に一寺づゝ建立
- 15
- ① し給ふより国分寺と国々にてなつく、今此
  - ② 寺、薬師如来御長一尺五寸の座像、千年におよふ、
  - ③ むかしの事しれかたし
  - ④ うすくこくわけく色をそめぬれハ
  - ⑤ 流転生死のあきのもミち葉
  - ⑥ 是よりくハんおんじ迄十八町

「西尾登」日記

- ① 拝借仕御銀之事
- ② 一、銀壹貫五百目秤立
- ③ 右者当
- ④ 御帰 城為御礼使出府被
- ⑤ 仰付候ニ付、依頼御貸被成当子年方
- ⑥ 酉暮迄利無拾年済拝借仕候処、
- ⑦ 実正ニ御座候、毎暮元入銀拙者御
- ⑧ 物成之内ニ而御引納可被成候、若
- ⑨ 滞候義も御座候ハ、加判人御充
- ⑩ 行ヲ以御引取可被成候、為後日仍如
- ⑪ 件
- ⑫ 嘉永五子年 西尾権七 判  
加判  
芦沢水之助 判  
同  
大森與惣 判
- ⑬ 竹内与四郎殿  
横井新右衛門殿  
中村九兵衛殿  
小川安右衛門殿

諏訪教忠「旅中留日記」三月廿二日

- ① 三月廿二日、日和
- ② 今朝船拵相済、五ツ時下津井

- ③ 出船、向二丸亀城鉢山の如く
- ④ 見セ絶景也、しかし横渡り
- ⑤ 二付まきり渡り五里斗ニして
- ⑥ 丸亀ニ着、湊ハ五六丁程も石垣
- ⑦ 出張、二筋ニメ近年江戸表の
- ⑧ 問屋中が被建候趣ニ而、見事
- ⑨ 之灯笼式本建有之候
- ⑩ 夫方湊方上陸、船宿ニ而
- ⑪ 支度、人馬雇入候、下津方丸亀へ
- ⑫ 九ツ時過着、此所方高松城下へ
- ⑬ 八里斗有之、夫方三四里余
- ⑭ 行小かけと申所ニ而支度いたし
- ⑮ 最早七ツ時ニも相成候ニ付、夜飯之
- ⑯ 積リニいたし候、此所迄高松出店方
- ⑰ 為御迎先達而上乗宰領ニ而
- ⑱ 罷下り居候為七并出店出入
- ⑲ 藤兵衛ト申者と参候事
- ⑳ 暮早々高松御城下
- ㉑ 丸亀町出店へ
- ㉒ 旦那様御機嫌能御着
- ㉓ 被遊候、御供面々無障着
- ㉔ 致候事

諏訪教忠「旅中留日記」同(四月)六日

- ① 同六日、日和

- ② 一、御林拜見被仰付、四〇時方
- ③ 旦那殿、彦七、幸右衛門、下男、
- ④ 次介、義介召連参事
- ⑤ 御取持吉原三八殿、中村
- ⑥ 加十郎殿ニ而御酒被下
- ⑦ 候、昼過方
- ⑧ 吟味、香西茂十郎殿
- ⑨ 御用所手代、小島安之介殿
- ⑩ 御奉行所手代、乃村八百次殿
- ⑪ 御吸物御料理万端結構
- ⑫ 被仰付、夜四〇時出店へ帰候事

諏訪教忠「旅中留日記」同(五月)八日

- ① 同八日、雨
- ② 一、金飛羅参詣之義、御聞濟
- ③ 相成、御供彦七、幸右衛門、下男兩人
- ④ 其外市蔵上下六人、金飛羅方
- ⑤ 善通寺、弥谷寺、夫方坂出
- ⑥ 新塩浜御見物、此処ニ
- ⑦ 熊屋茂左衛門殿方塩会所
- ⑧ 有之、右之処ニ而御酒被下
- ⑨ 殊外馳走ニ御座候、前以
- ⑩ 丸亀まで御迎ひニ参居
- ⑪ 候、夫方白峯寺御参詣
- ⑫ 御一宿、宝物拜見、種々

- ⑬ 馳走ニ相成候事
- ⑭ 泊付
- ⑮ 八日 金飛羅 余島屋 吉右衛門方
- ⑯ 九日 丸亀 淡路屋 米蔵
- ⑰ 十日 白峯寺
- ⑱ 十一日 御帰宿
- ⑲ 右之通ニ而万々可供事

諏訪教忠「旅中留日記」少々一笑

- ① 少々一笑可致事有之候ニ付
- ② 書留置
- ③ 京都方下向道大仏殿拜見、
- ④ 向角大仏餅屋ニ而藪氏
- ⑤ 大仏餅廿被買候而、自分ニ
- ⑥ 持歩行被致候、跡方我等兩人
- ⑦ 参荷物持次助参ル、伏見
- ⑧ 稻荷前へ参候所ニ而藪氏
- ⑨ 例之竹の皮より大仏餅三つ
- ⑩ 取出シ、汐見我等へ被下引続き
- ⑪ 荷物次助へ忒つ被下候処、
- ⑫ まづあなたおあがり可被成旨
- ⑬ 申候処、殊の外立腹ニ而、しれた
- ⑭ 事ゆへおれがくおうと思ふて
- ⑮ かうたもちじや、おれかくわ
- ⑯ いでか、それハしれた事
- ⑰ なれと、さきへゆつてしまわぬ

- ⑱ とめんどなのじやといふて、いろく
- ⑲ のいわるでもよる事おと、にかわらひ
- ⑳ 二而有之候ぬからぬかをにて赤面
- ㉑ すら、さよふならばといふて
- ㉒ 式つくらひ候、其時のかをいろ
- ㉓ 双方共中々面白ク一笑く

「大急御用」大矢家 12119

- ① 以手紙申達候、然ハ
- ② 一位様薨去ニ付、先達而
- ③ 物静之儀申達置候、依之
- ④ 普請ハ明九日方、鳴物ハ来ル
- ⑤ 十七日方御構無之候条、此旨
- ⑥ 被得貴意在中江可被相
- ⑦ 触候、以上

⑧ 岡織部

十二月八日

- ⑨ 野田幸右衛門殿  
戸田精左衛門殿  
青木正兵衛殿

- ⑩ 別紙之通、御用番
- ⑪ 岡織部殿方被仰達候条、
- ⑫ 得貴意、寺社末々迄不洩様
- ⑬ 可被相触候、以上
- ⑭ 十二月八日 青木正兵衛

戸田精左衛門  
野田幸右衛門

大庄屋中

- ⑮ 御別紙御両通之通、御達
- ⑯ 御座候間、御承知之上、寺社方
- ⑰ 末々迄不洩様一統江御申
- ⑱ 触可在之候、已上
- ⑲ 三好新八郎
- ⑳ 十二月九日
- ⑳ 昼九(半)時出
- ㉑ 下勝間村 笠岡村  
上高野村 本ノ大村  
大野村 西之村  
中之村
- ㉒ 尚以早々順達留方返却  
可在候、已上